

30年後のキャンパス像を描いたフレームワークプランでは、東山キャンパスのグリーンベルトにある中央図書館を地下鉄駅と直結する地下に沈め、地上部を緑化、南北両側の建物に全学教育スペースを再配置することにより、グリーンベルトを多くの構成員や来訪者が集い、地域に開かれたパブリックスペースとして再生することを目指しています。

渋澤元治名古屋大学初代総長は「緑の学園」構想を打ち出し、当時、名古屋市の東の外れであったこの丘陵地から、遙か西の名古屋の都心部を遠望し、地域の多大な尽力によって開設されたこのキャンパスから、社会への貢献を誓う想いを込めたに違いありません。実は、現在の豊田講堂から伸びる緑豊かなグリーンベルトの軸線を延長すると、遠く名古屋城に突き当たります。史実としての記録には残っていませんが、先人たちが描いたプランの視線の先には、名古屋城の天守閣があったことでしょう。



キャンパスマスタープラン2016
「30年後の東山キャンパス」

NAGOYA UNIVERSITY CAMPUS MASTER PLAN

2016

名古屋大学キャンパスマスタープラン2016 ダイジェスト版

企画・編集：
次期キャンパスマスタープラン（2016-2021）策定ワーキンググループ、
施設・環境計画推進室，工学部施設整備推進室，施設管理部

発行者：国立大学法人 名古屋大学

キャンパスマスタープラン2016本編は以下のURLよりダウンロードいただけます。
<http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/06other/guideline/cmp.html>

キャンパスマスタープラン2016の基本目標

キャンパスマスタープラン（CMP）は、大学がその経営理念に基づき合意形成したキャンパス空間の計画目標であり、継続的に実施される施設・環境の整備と運営の拠りどころとなる指針です。

CMPは「名古屋大学学術憲章」に掲げられた基本理念のもとで実践されるアカデミックプランを支えるために計画されるものであり、これまでCMP2010まで4回にわたり策定されてきました。

今回改訂したCMP2016では、30年の長期的な視野でのフレームワークプランを策定するとともに名古屋大学が定める中期目標・中期計画や「名古屋大学松尾イニシアティブ NU MIRAI 2020」に対応した6年間に実行すべきアクションプランを策定しています。

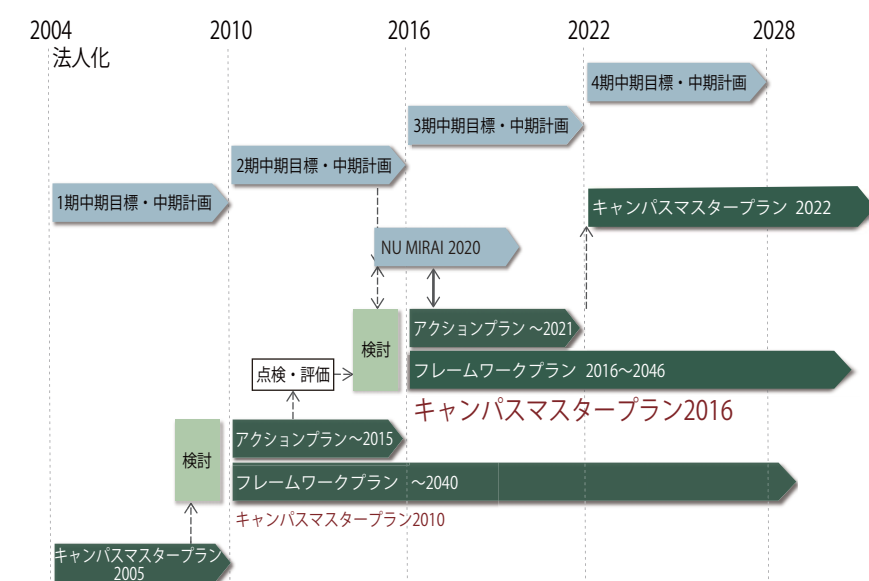


キャンパスマスタープラン2016「30年後の東山キャンパス」



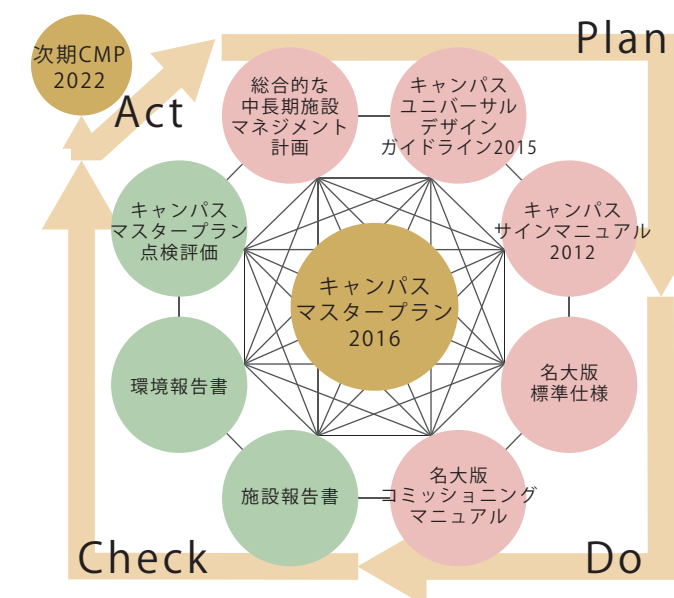
CMP2016の位置付け

本学では、1997年、2001年、2005年、2010年と4回にわたり、CMPを策定してきました。今回の「キャンパスマスタープラン2016」においても、更新時期に合わせて、フレームワークプランとアクションプランからなる計画を策定しました。



CMP2016実行のためのガイドライン

CMP2016では、その実行のために各種の施設関連ガイドラインや点検評価の仕組みを構築しています。これらは次期CMPに反映されるものであり、PDCAによる点検評価のフィードバックによって、確実に実行することを意図しています。



キャンパスの点検・評価と CMP2016の課題

名古屋大学のキャンパスマスタープランは、国内外の情勢やアカデミックプランに柔軟に対応させるため、点検・評価から現状課題を明確化し、その課題解決のための計画や目標を新たにプランに取り込んで、成長・発展させています。

キャンパスマスタープラン(CMP)2016の策定に際し、前プランであるCMP2010の点検・評価を踏まえた達成度の分析、およびCMP2010に関する外部評価等の成果や現状における施設整備状況、及び、現在のキャンパスの抱えている課題を整理しました。

CMP2010期間中の施設整備状況 ()内は完成年度



1. 附属学校交流館 (2014)



2. 中央図書館改修 (2013)



3. アジア法交流館 (2015)



4. NIC(2014)



7. ITbM(2014年)



8. 理学南館 (2011)



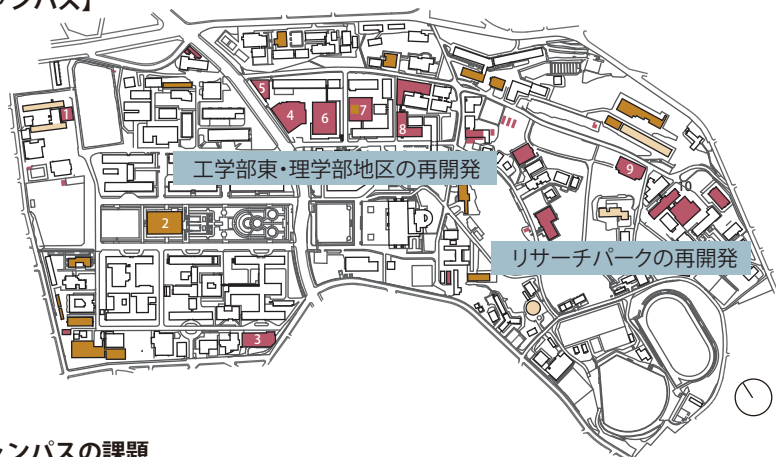
9. 創薬科学研究所 (2015)



10. 研究所共同館 (2013)

各キャンパスの課題

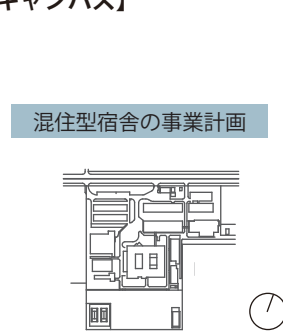
【東山キャンパス】



東山キャンパスの課題

- ・教育研究施設およびインフラ設備の老朽化対策
- ・集約整備による建詰まりの解消とパブリックスペースの確保
- ・図書館機能のさらなる高度化と整備
- ・未想定建物の敷地確保や仮設建物の制御
- ・部局人員の分散配置問題への対応と講義室の集約・再配置
- ・リサーチパーク・工学部7号館地区の再開発
- ・入構車両の抑制と駐車・駐輪場の整備
- ・福利厚生機能の充実と賑わい創出

【大幸キャンパス】



大幸キャンパスの課題

- ・混住型留学生宿舍整備と賑わいの創出
- ・集約的建替え整備に向けた維持保全
- ・保健学研究拠点の形成と新事業展開へのスペース確保
- ・学生のための自学自修スペースの確保

CMP2010の成果

キャンパスマネジメントに対する学外からの評価

- ・2015年 日本建築学会賞(業績)受賞
- ・CASnet Japan サステイナブルキャンパス評価「プラチナ」認証
- ・改修された豊田講堂が国の登録有形文化財に認定
- ・文部科学省のシステム改革取り組み 4年連続「A」評価

低炭素エコキャンパス化

- ・主要3団地 名古屋市「優良エコ事業所」認定
- ・全国エコ大学ランキング第1位

CMPを実効するための施設関連ガイドライン等の整備

- ・キャンパス・サインマニュアル2012
- ・ユニバーサルデザイン・ガイドライン2015
- ・東山・鶴舞キャンパスの地区計画決定



5. 減災館 (2013)



6. ES 総合館 (2010)



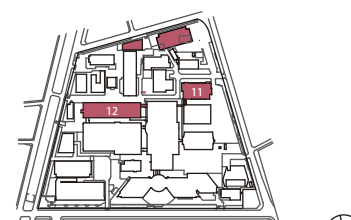
11. 医系研究棟3号館 (2014)



12. 最先端医療機能強化拠点
(2017年度完成予定)

【鶴舞キャンパス】

3号館・機能強化拠点の整備



鶴舞キャンパスの課題

- ・教育研究施設とインフラ設備の老朽化対策
- ・建て詰まりの深刻化とパブリックスペースの確保
- ・福利厚生・緑地環境・駐車場の整備
- ・バリアフリー対応
- ・国際交流・産学連携への対応

点検・評価と今後の課題

CMP2010の点検・評価

- ・CMP2010の達成度と課題の把握
- ・フレームワークプランは達成度の伸びが鈍い
- ・アクションプランは達成度が高い

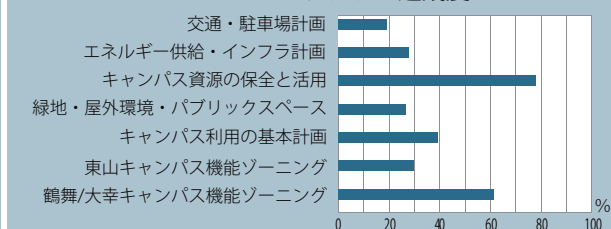
フレームワークプランの課題

- ・30年後ビジョン実現の筋道が見えない

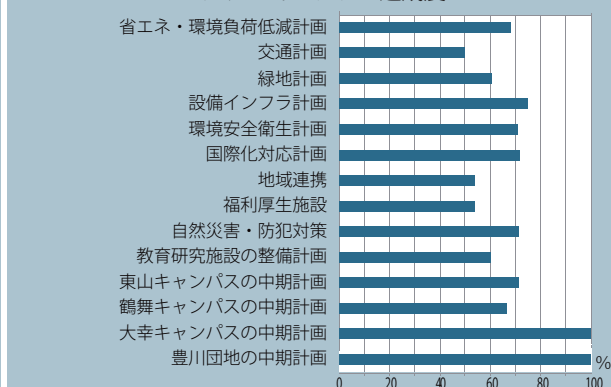
アクションプランの課題

- ・交通計画、地域連携、福利厚生施設の到達度が低い
- ・建て詰まりの進行と美しさの欠如への対応
- ・施設運営費の増大による財政への圧迫への解決策

フレームワークプラン達成度



アクションプラン達成度



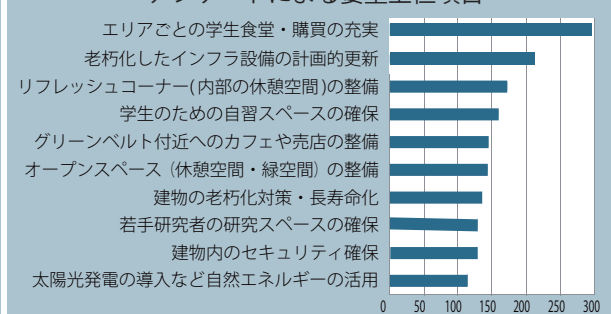
CMP2010の点検・評価

マネジメントの課題

- ・運営費交付金の減少と施設運営費の増大
- ・老朽施設の増大と更新・改修財源の不足
- ・産学連携等プロジェクトスペース不足
- ・外国人宿舍等の需要の増加と施設の老朽化

構成員が望むキャンパス (アンケート調査より)

アンケートによる要望上位項目



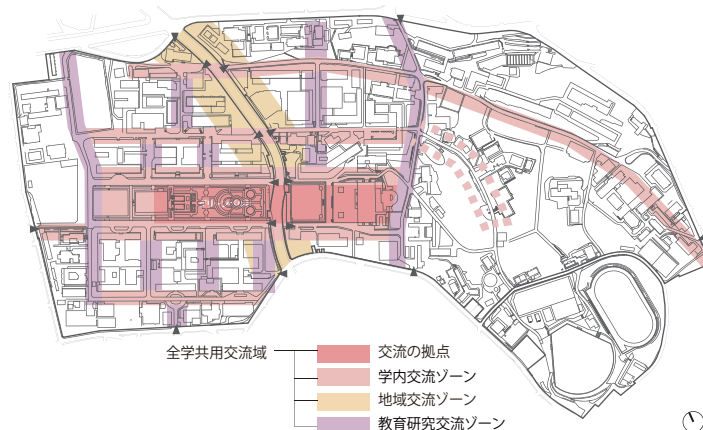
フレームワークプラン ー30年後の長期ビジョンー

ここでは30年後に実現を目指す計画目標をフレームワークプランとして示します。将来にわたって維持されるべきキャンパスのあり方をゾーニングや交通・緑地・インフラ計画等にわけて整理し、サステナブルに維持すべき項目と各キャンパスにおける基本方針を明らかにしました。

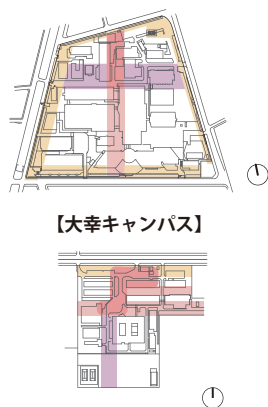
交流のゾーニング

「知の創造」「知の交流」「開かれたキャンパス」を達成するために各種交流ゾーンおよびこれら交流ゾーンが重なる部分を「交流の拠点」として整備していきます。特に東山キャンパスではグリーンベルトを本学のシンボルゾーンと位置づけ整備していきます。

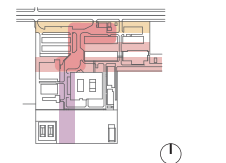
【東山キャンパス】



【鶴舞キャンパス】



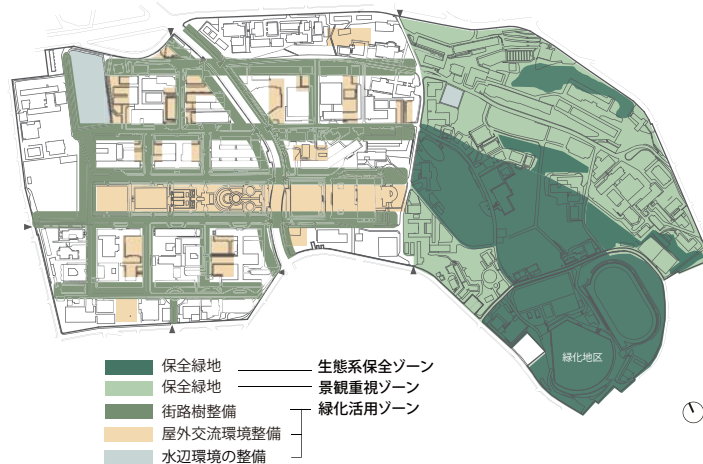
【大幸キャンパス】



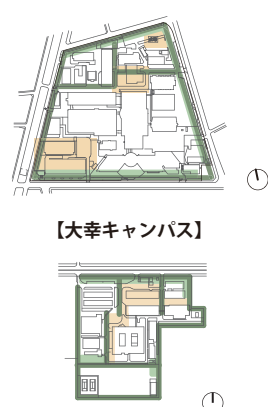
緑地・屋外環境計画

名古屋市東部の広域的な緑のネットワーク形成を踏まえ、緑地や生態系の保全を基本として、都市およびキャンパスに貴重な緑を提供します。学生・教職員および周辺地域との連携を推進するための活動を重視した屋外環境を整備します。

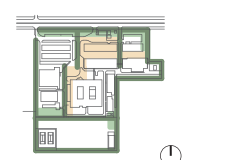
【東山キャンパス】



【鶴舞キャンパス】



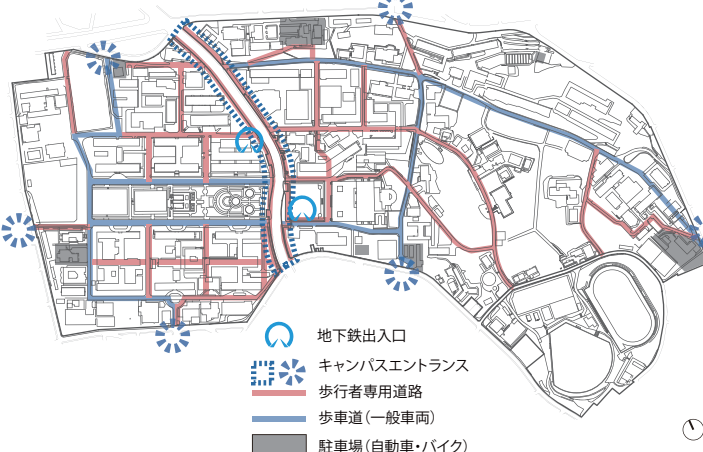
【大幸キャンパス】



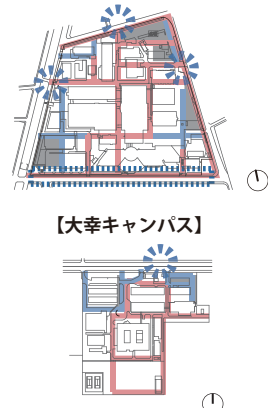
交通・駐車場計画

キャンパスの外周部に駐車場を確保し、歩行者を優先した、わかりやすく、安全で、静かで、美しいキャンパスを目指します。また、シェアサイクルや電動バスなど、社会を先導する新技術を積極的に活用し、学内移動の効率化を検討します。

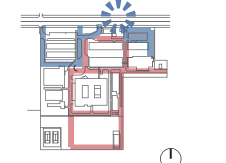
【東山キャンパス】



【鶴舞キャンパス】



【大幸キャンパス】



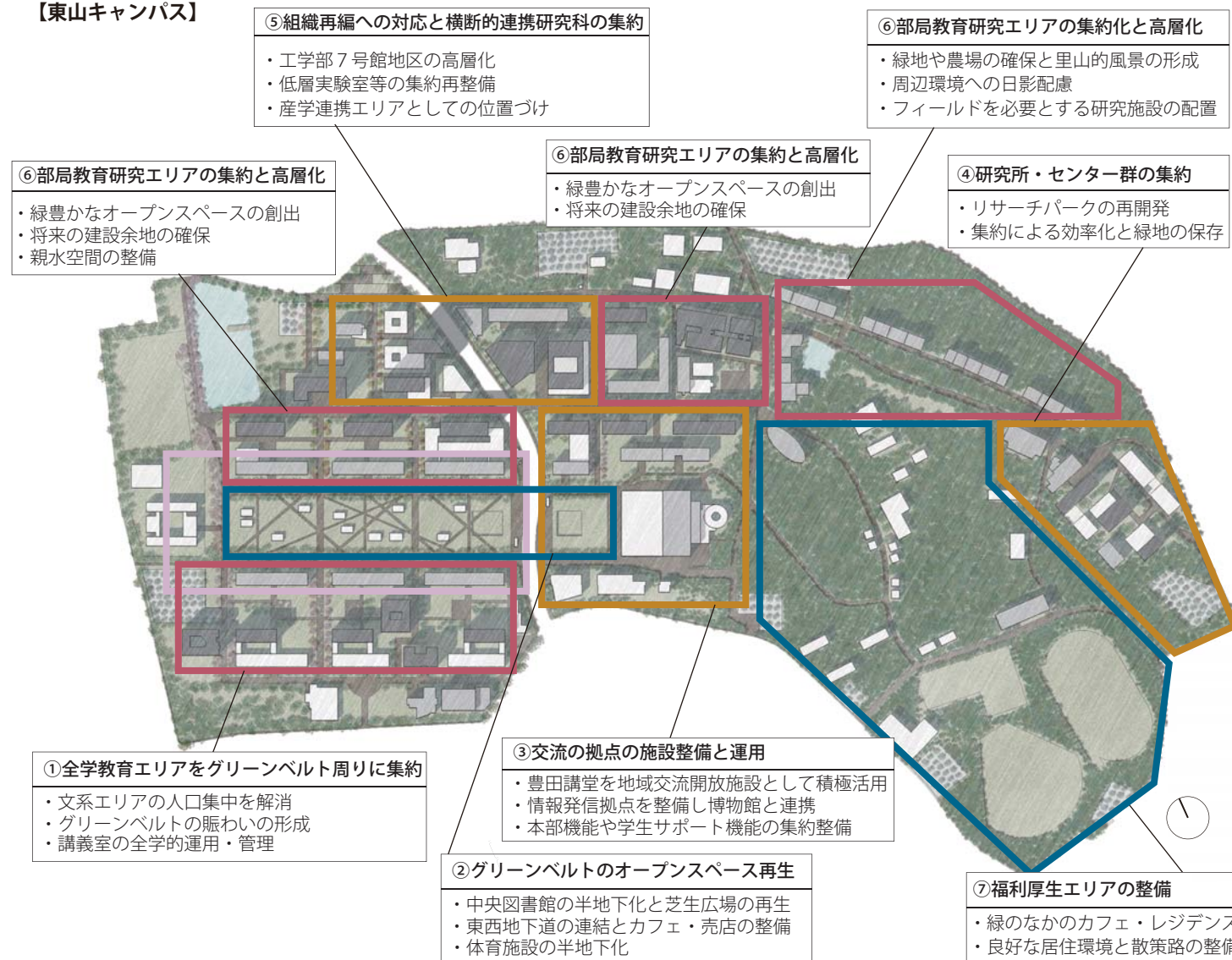
エネルギー供給・インフラ計画

本学では、キャンパス低炭素化を軸に据えつつ、資源有効利用を含む多様な側面から“世界水準のサステナブルキャンパス”の実現を全学をあげて目指します。これには地域社会との連携、国外への技術移転などを含めた、ハード・ソフトあるいはオンサイト・オフサイトなど多面的に、かつ多彩な手法を駆使して取り組んでいきます。

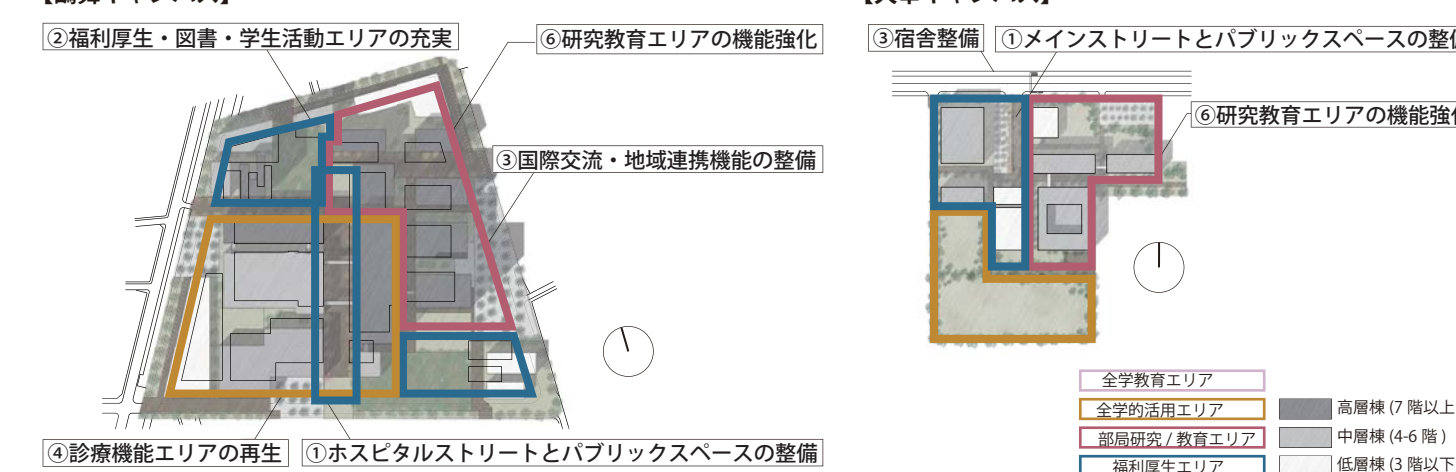
エネルギー供給・インフラに対しては、供給に対する信頼性・安全性の確保や頑健性を高めた整備を行い、ネット・ゼロ・エネルギー・キャンパス (Zero Energy Campus : ZEC) を指向した整備を合わせて段階的に実施します。

各キャンパスのフレームワークプラン

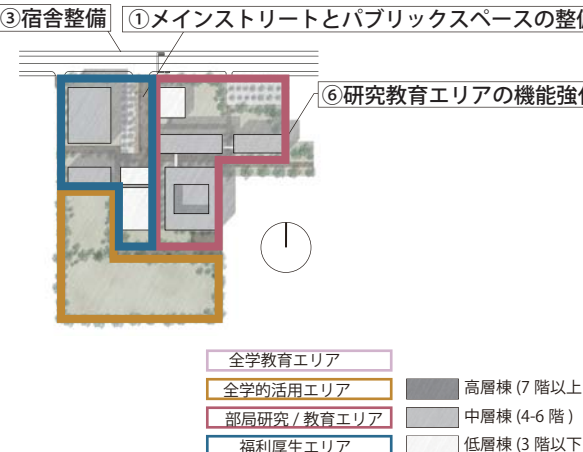
【東山キャンパス】



【鶴舞キャンパス】



【大幸キャンパス】



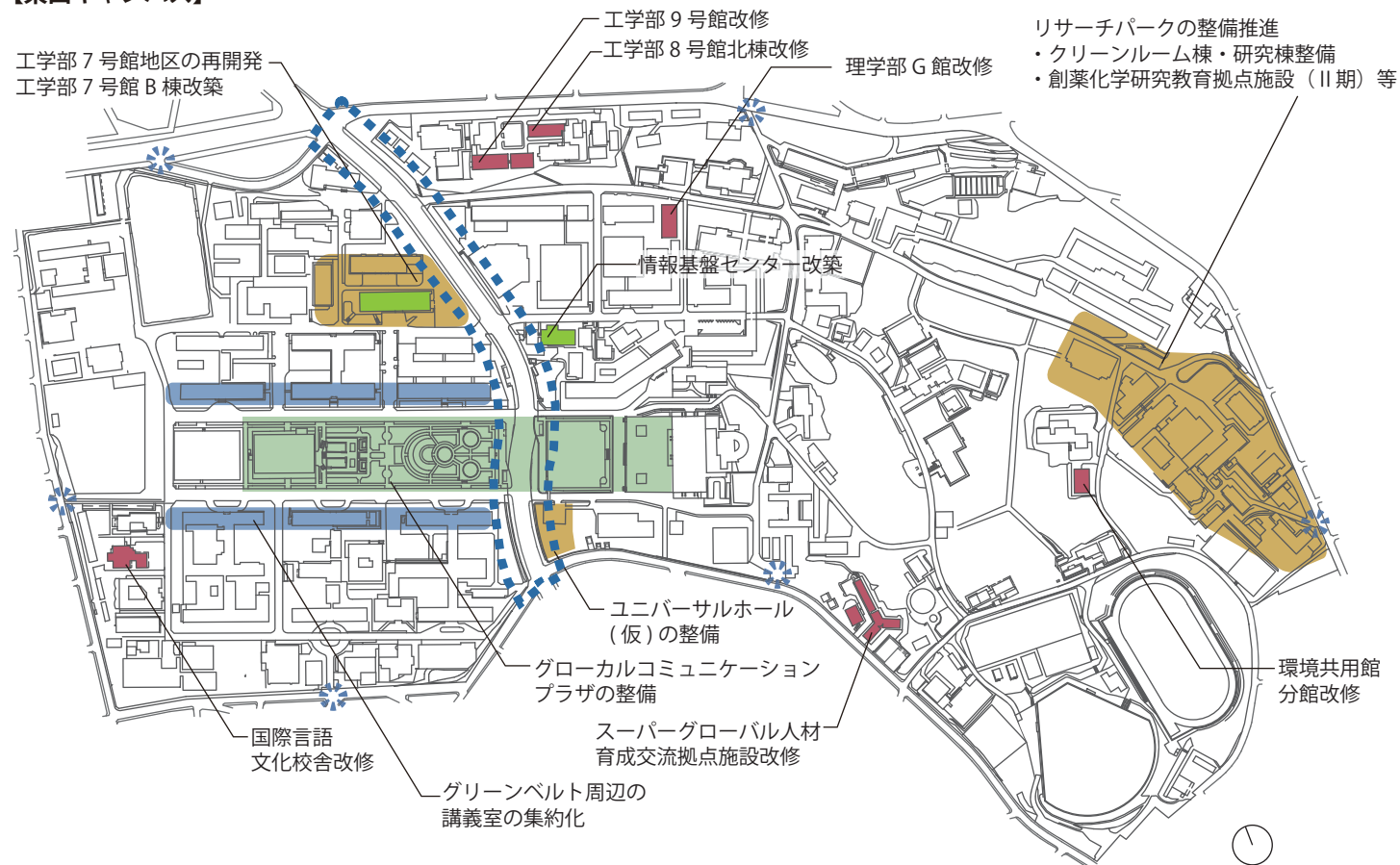
アクションプラン — 6 年間の中期計画 —

ここでは第3期中期目標・中期計画期間である2021年度までの6年間に実行すべきアクションプランを示します。

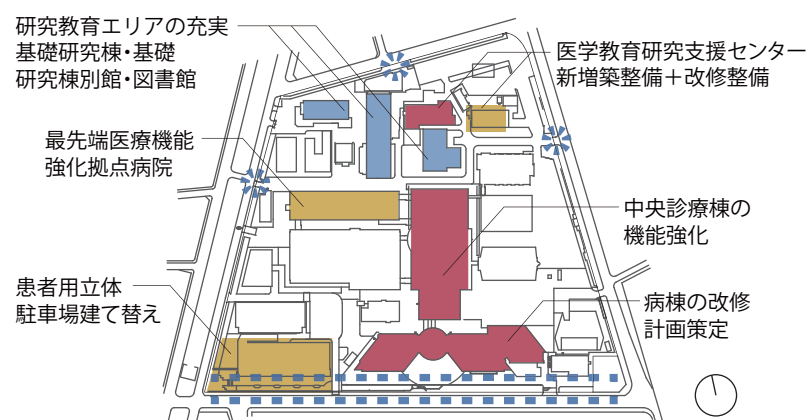
アクションプランは、地域連携・パブリックスペース・交通・緑地・低炭素化・設備インフラ・環境安全衛生・防災・防犯・国際化・産学連携・福利厚生・ユニバーサルデザイン等の項目について検討し、各々①新規投資を伴う整備、②学内予算による整備、③運用対応の3つに分けて計画しています。

各キャンパスのアクションプラン

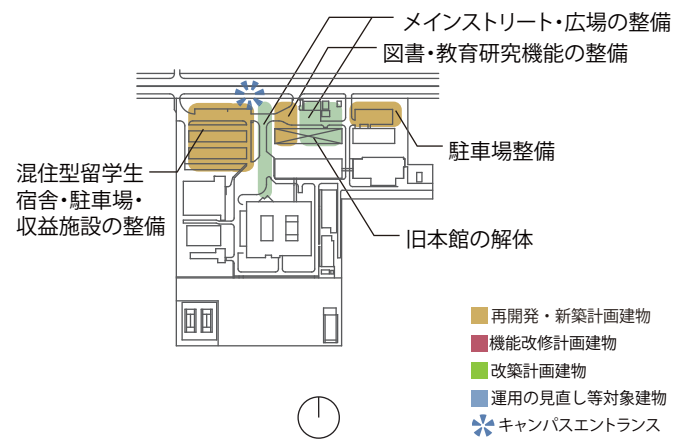
【東山キャンパス】



【鶴舞キャンパス】



【大幸キャンパス】



自由闊達な教育研究風土の基盤となるキャンパス

地域連携| 社会と大学の双方向コミュニケーションをベースとした共創的空間の整備。

- ①グリーンベルト~四谷・山手通り沿いのパブリックスペース整備。
- ②「豊田講堂-グリーンベルト-中央図書館」をワンセットとした活用

パブリックスペース| 地域交流・産学連携の拠点となる学生・教職員・来訪者の居場所として、交流の拠点や交流ゾーンに沿ったパブリックスペースの再編。

- ①パブリックスペースの連続による空間性の向上。
- ②福利厚生施設・公開施設近傍のパブリックスペースの整備。
- ③屋外環境要素としての素材・照明・植栽によるトータルデザイン。

交通計画| グリーンベルト周りの歩行者空間化をはじめとしたウォークアブルなキャンパスへ向けた次世代都市モデルへの転換。

- ①歩車分離と歩行者ネットワーク化。②外周部への駐車場整備と駐輪場の集約化。
- ③公用車の部局間シェアリングやシェアサイクル。④自動運転バスの導入による新技術の試行。

緑地・生態系保全計画| 生態系保全ゾーン・景観重視ゾーン・緑地活用ゾーン別の環境共生型のランドスケープ計画。緑化率の目標達成。市民ボランティア・学生による美化。

地球環境に配慮した低炭素エコキャンパス

低炭素化計画| ゼロ・エネルギー・オリエンテッドなキャンパスの促進

- ①低炭素建築への配慮。②自然・新エネルギーシステムの積極的な利用とBCP配慮。
- ③外部資金に施設高度化の検討。

設備・インフラ計画| ライフラインの安定的供給に向けた信頼性・耐久性の向上。

- ①基盤的経費などの財源確保。②「総合的な中長期施設マネジメント計画書」に基づいた更新。

環境安全衛生| 新たな歴史をつくる美しく安全で快適なキャンパス形成。

- ①PH集中管理システムの更新。②実験排水設備標準仕様の確立。

防災| 大規模自然災害時の学生・教職員の安全確保、先端研究・高度教育の継続と早期復旧、地域貢献

- ①天井等非構造部材の耐震対策。②BCP計画の策定。③防災訓練や地域連携。

防犯・セキュリティ| 情報および建物防犯に関するセキュリティガイドラインの策定とその対策

- ①キャンパス内ハザードマップの充実。②セキュリティガイドラインの作成。

知の交流を促すキャンパス

国際化| 留学生受入れ体制の整備(日本人学生・留学生混住型宿舎の建設)や海外拠点の整備(アジアサテライトキャンパス)

- ①多文化共生に向けた対応。②交流を活性化するスペースの整備。③バンケットスペースの充実。

産学連携| 企業の資金拠出による大型研究施設の建設、企業との学内共同研究講座からの安定的な収入確保、大学発ベンチャーの収益還元

福利厚生施設(食堂・学生スペース等)| カウンセラーなど適切な専門職との連携システムの構築および多様な構成員のためのスペース充実

- ①総合サポートセンター。②学生拠点の整備。③ハラル対応。④民間の移動販売者の導入。

ユニバーサルデザイン・男女共同参画| 国籍や障がいの有無を問わず多様な構成員や来訪者がストレス無く過ごし、ワークライフ・バランスを保ったキャリア継続を可能とする環境整備の推進

- ①ユニバーサルデザイン講義室の導入。②学内保育施設、多目的室、ユニバーサルトイレの整備。

キャンパスマネジメントによる アクションプランの実行

キャンパスマスタープラン2016に記載された計画を実現するためには、必要な財源を確保し実行する仕組みとしてのキャンパスマネジメントが重要です。

キャンパスマネジメントは、ファシリティマネジメント(FM)、デザインマネジメント(DM)、エネルギーマネジメント(EM)の3つからなり、それぞれのマネジメントは、品質(クオリティ)・供給(スペース)財務(コスト)の目標を各々設定し、その達成度を評価していきます。CMP2016の下に策定した「総合的な中長期施設マネジメント計画」に基づき、限られた財源のなかで着実に計画を進めていく仕組みをもつことが、名古屋大学のCMPの最大の特徴にもなっています。

● 大学経営に貢献するファシリティマネジメント：F M

経済的・社会的・環境的にサステナブルなキャンパス形成に向けて

○ ライフサイクルマネジメントによる持続可能な施設の更新・改修・運用

- ・施設面積の増加を抑制・減築し、持続可能な規模を適正化
- ・更新・改修周期の見直しによるライフサイクルコストの抑制と平準化
- ・中長期保全計画の見直しによる長寿命化の促進
- ・施設実態データベースに基づく適切な改修・修繕

○ スペースマネジメントによる戦略的プロジェクト等スペースと財源の確保

- ・競争的プロジェクトや産学連携プロジェクトのためのスペース拡充
- ・学生自修スペースや交流を促すパブリックスペースなどの計画的確保
- ・各部署のスペース配分基準の見直しとスペース棚卸しの実施
- ・スペースチャージの実施による中長期マネジメント経費の確保

○ アセットマネジメントによる宿舍等資産の圧縮と効率化

- ・職員宿舍・留学生宿舍・学生寮等ハウジング施設の一元管理体制の構築
- ・各利用者ニーズの把握による全体需要の見直し
- ・各敷地や施設の状況に応じた多様な財源による事業スキームの策定
- ・優先順位付けによる年次計画の策定と実行

● キャンパス空間の質を担保するためのデザインマネジメント：D M

新たな歴史をつくる美しく安全で快適なキャンパス形成に向けて

- ・デザインプロセス、体制、設計者選定基準の明確化
- ・施設性能を担保する名古屋大学型コミショニングの制度化
- ・デザインガイドラインによる統一感のある景観やパブリックスペースの創出
- ・サインマニュアルとユニバーサルデザインガイドラインの運用

● 低炭素エコキャンパス実現のためのエネルギーマネジメント：E M

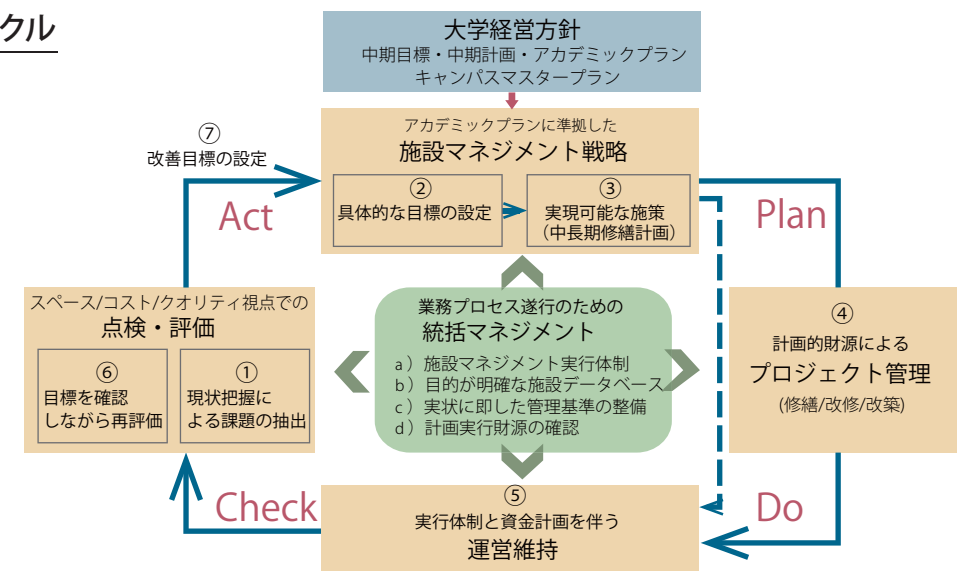
ゼロ・エナジー・オリエンテッドなキャンパスの促進

- ・CO₂排出量2005年比25%削減のための財務的施策
- ・キャンパス全体で LEED-ND 認証取得、個別建物はCASBEE-A 以上の取得
- ・情報基盤センターのエネルギー供給の外部的化

■ マネジメントにおけるPDCAサイクル

FM、DM、EMにおけるマネジメントは、PDCAサイクルを用いた検証を行うことで、改善すべき項目の管理を実施しています。

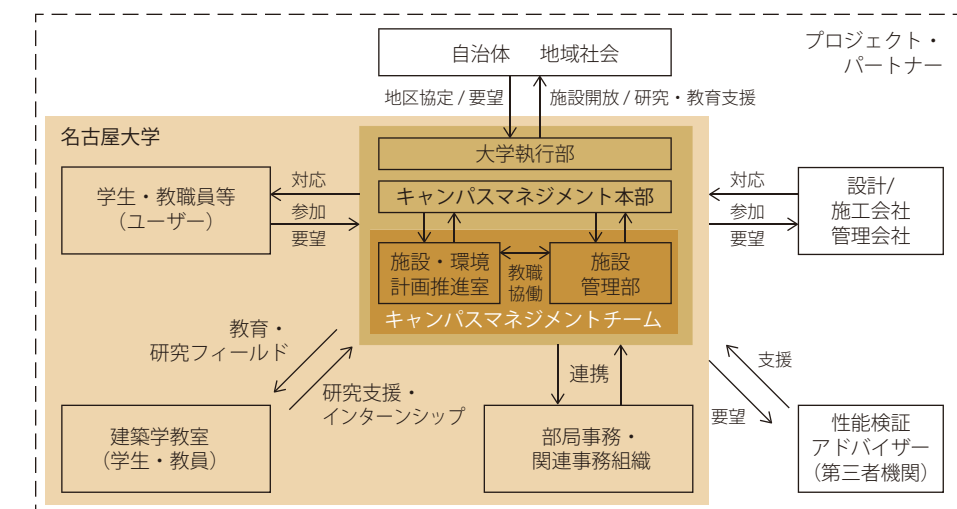
その際、課題解決の具体的な目標：KPI(重要業績評価指標)を改善数値目標として設定します。



■ キャンパスマネジメントの体制

建築、屋外環境の整備は、キャンパスマネジメント本部を中心とした推進体制により推進していきます。

このキャンパスマネジメント本部は、大学執行部／施設・環境計画推進室／施設管理部のメンバーによって構成されています。



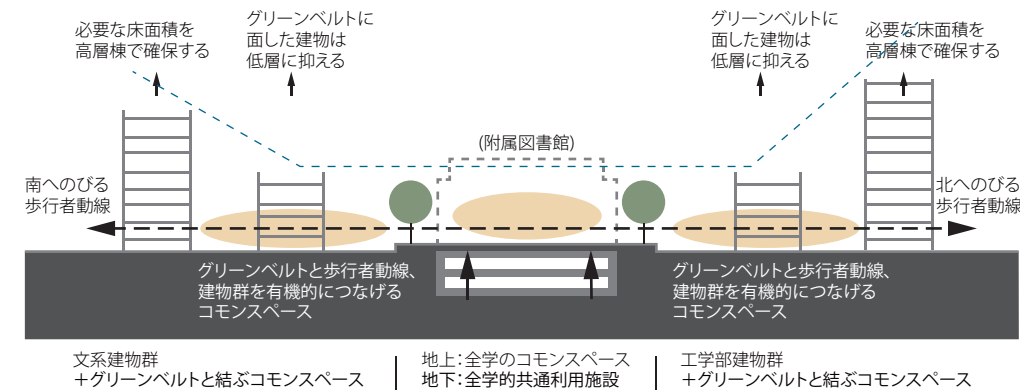
■ グリーンベルトのデザインコードと将来構想

豊田講堂から続くグリーンベルトは東山キャンパスの「交流の拠点」として再整備していきます。

グリーンベルトには視線を遮る施設は設けず、グリーンベルトに現存する中央図書館を地下鉄駅と直結する地下に沈めます。

これにより地上部を緑化、南北両側の建物に全学教育スペースを再配置することにより、グリーンベルトを多くの構成員や来訪者が集い、地域に開かれたパブリックスペースとして再生することを目指しています。

【東山キャンパス：南北断面】



【東山キャンパス：東西断面】

